

## Contents

### 02-03 News Letters

## 第6代 羽藤英二会長 新体制スタート

第12回通常総会開催



第6代会長

羽藤英二

東京大学教授

第5代会長

家田仁

政策研究大学院大学教授

東京大学名誉教授

### 04 Opinion

激変する時代の中で国土と  
都市を考える場に

羽藤英二

### 05 Interview

国土を愛し「俯瞰的総合力」  
を磨く会員サロンへの期待

家田仁

### 06-07 Projects

アセアン・インド地域事務所  
を開設しました

宿利正史

### 08 Column

巡礼と道～スペイン巡礼紀行～

白木原隆雄

## お知らせ

## Information

### 第1回 小研究会の活動報告

イブニングセミナー

第1回イブニングセミナーは、当研究会に設置されている3つの小研究会の活動報告です。

- 日 時 2021年6月2日(水) 18:00～20:00(予定)
- 形 式 オンラインセミナー(ZOOM ウェビナー)
- 内 容 ①伝統的工法のルネッサンス(再生)を考える小研究会報告：東京工業大学 真田純子  
コメンテーター：東京大学 知花武佳  
②海外インフラプロジェクトの発注者視点を学ぶ小研究会報告：清水建設 寺村隆男  
椋山女学園大学 大串葉子  
コメンテーター：日本大学 福田 敦  
③明日の道路を考える小研究会報告：東京理科大学 柳沼秀樹  
コメンテーター：国土交通省 手塚寛之

### 第2回 宇宙はいったい誰のもの？

—宇宙時代に向けた新たな社会システム

イブニングセミナー

地球上の資源獲得を巡り、国際競争が激化する中で、月や火星が最後のフロンティアとして注目を集め、各国は技術開発を進めています。低コストの民間の小型商用ロケットも多数打ち

上げられ、宇宙空間からのインフラモニタリングなどの新たな技術の可能性が期待される一方で、安全保障上の問題や倫理などの課題もあります。今回のセミナーでは、宇宙開発をめぐる論点と今後の方向性について解説していただきます。

- 日 時 2021年7月2日(金) 16:00～18:00
- 形 式 オンラインセミナー(ZOOM ウェビナー)
- 話題提供者 東京大学 中須賀真一
- コメンテーター 清水建設(株) 寺村隆男
- 討議者 鹿島建設(株)顧問 田代民治

### 見学会(中止および代替イベントの開催)

見学会

「福島見学会」は新型コロナウイルスの感染再拡大を受け、現地での開催を中止し、代替イベントとして「福島リモートスタディツアー」をオンラインで開催します。福島第一原発、中間貯蔵施設からの現地レポートおよび、菅野典雄氏(飯館村前村長)と田中俊一氏(原子力規制委員会初代委員長・飯館村在住)による福島の復興をテーマとした対談で構成する予定です。

- 日 時 2021年6月25日(金) 15:00～17:30
- 形 式 オンラインセミナー(ZOOM ウェビナー)

ZOOMに接続できない方のためにYouTube配信を予定しております。セミナー終了後にYouTubeをHPに掲載いたします。

## 第6代 羽藤英二会長 新体制スタート ～第12回通常総会開催～

第12回通常総会と合同役員会が4月22日(木)13時より全日通霞が関ビル8F大会議室Cにて行われました。新型コロナウイルス感染症が再度拡大の状況にある中、前年度と同様、メールまたはFAXによる議決権行使と併せ、極めて小規模な形式で開催しました。本年度は新型コロナウイルスの影響を勘案し、企業会員の会費負担の臨時軽減措置をとることになりました。

なお、当会会長は、第5代の家田仁会長から第6代の羽藤英二会長に交代し、総会翌日の4月23日(金)より新体制での活動が始動しました。

## 第1号議案

2020年度事業報告および決算

## 第2号議案

2021年度事業計画および予算

## 第3号議案

役員等の選任



総会の様子

## 1. 理事・監事の選任

新役職	氏名	所属・役職	備考
代表理事・会長	羽藤 英二	東京大学 教授	企画委員長兼務
理事・会長代理	岩倉 成志	芝浦工業大学 教授	経営委員長兼務
理事	茶木 環	作家/エッセイスト	広報委員長兼務
理事	金子 雄一郎	日本大学 教授	幹事長兼務
理事	寺部 慎太郎	東京理科大学 教授	会長代理を退任
理事	徳山 日出男	政策研究大学院大学 客員教授	
理事	白木原 隆雄	(一社)計画・交通研究会	新任、事務局長兼務
監事	福田 敦	日本大学 教授	
監事	遠藤 秀彰	(株)大林組 東京本店営業部長	新任

なお、退任する理事、監事は以下のとおりです。

旧役職	氏名	所属・役職	備考
代表理事・会長	家田 仁	政策研究大学院大学 教授	退任
理事	清水 英範	公益社団法人 日本測量協会 会長	退任
理事	屋井 鉄雄	東京工業大学 副学長・教授	退任
監事	塙 守幸	(株)大林組 営業総本部営業担任本部長	退任

## 2. 評議員の選任

前評議員(退任)		新評議員(選任)	
氏名	所属・役職	氏名	所属・役職
塙 守幸	(株)大林組 営業総本部営業担任本部長	遠藤 秀彰	(株)大林組 東京本店営業部長
遠藤 元一	東日本高速道路(株) 参与	松崎 薫	東日本高速道路(株) 取締役兼常務執行役員
山本 卓朗	(一社)未来構想PF 代表理事・会長(前)	林 康雄	(一社)未来構想PF 代表理事・会長(新)
高松 亨	(株)地域開発研究所 顧問	—	—

## 第4号議案

新型コロナウイルスの影響を勘案した企業会員の会費負担の臨時軽減措置について

1. 2021年5月末日までに申し出のあった法人会員並びに法人賛助会員について、会費を35%軽減する。
2. 当面2021年度に限った臨時措置とする。
3. 当会会員は、上記の臨時軽減措置が適用された会員名を閲覧することができるものとする。



退任挨拶をする家田前会長

## 第5号議案

定款改正

1. 社員総会の開催時期の改正(4月開催⇒決算後3カ月以内(4、5、6月))
2. 電磁的方法、オンライン開催の追加(社員総会、理事会、評議員会)



就任挨拶をする羽藤新会長



(左から)選任された白木原理事・徳山理事・茶木理事・羽藤代表理事・岩倉理事・金子理事・遠藤監事



(左から)退任される塙監事・家田代表理事・清水理事



合同役員会に出席した理事・監事・評議員

## [第6代 羽藤英二会長 就任挨拶]



## Opinion:

## 激変する時代の 中で国土と都市を 考える場に

東京大学教授

羽藤 英二

本年4月23日に5代会長家田仁先生の後を任され、計画・交通研究会第6代会長に就任しました。皆様ご存知のように、計画・交通研究会は、2代会長の中村英夫先生、3代会長の黒川洸先生、4代会長の森地茂先生が中心になり、鈴木忠義先生のあて塾や、高橋裕先生、井上孝先生、中村良夫先生らが一緒になって幅の広い活動の基盤をつくりあげてきたものです。

「社団法人化10周年／設立45周年特別号」を読むと、中村英夫先生は、当会における鈴木先生のあて塾の活動を全総計画に盛り込むなど計交研の知的交流を大きく展開し、インフラプロジェクトの70年を総括した上で、日本橋をはじめとする国土の問題を今も精力的に考え続けています。また黒川洸先生は、地方都市の中心市街地の再生において、先を読みながら見直しを進める重要性について、現場から考えることの大切さを訴えておられます。森地茂先生は、清水英範先生や上田孝行先生らと国際化を大きく進めるとともに、この分野がもっている問題の広さに対する情報交換こそが会の交流の中に求

められるべきと述べておられるなど、計交研45年の歴史のなかで、歴代の会員の皆様と、豊かな交流の場が積み重ねられてきたことが伺えます。

講演・シンポジウム・視察といった初期の計交研の活動を基本としながらも、家田前会長と水野高信元事務局長と高橋祐治前事務局長を中心とする事務局メンバーによって、イブニングセミナー・現地視察・若手勉強会・海外留学生サマーセミナー・小研究会などへと発展的な活動が近年展開されてきました。国土の歴史に関心を寄せながら、都市と地方をめぐるインフラの多様なプロジェクトに目を向け、分野を超えた議論を手繰り寄せるようなサロンが、多くの会員の皆様の参画と厚い支援を得て継続されてきたとあっていいでしょう。

現在、国土の計画と交通をめぐる環境は、激変しています。東日本大震災から10年を経て、急激な人口減少と福島の問題は現在進行形です。COVID-19による分断と格差、リモート社会の進展は、国土の未来像に大きな変化を求めています。気候変動に伴うカーボンニュートラル

や流域治水の考えは、今後の国土管理に大きな更新をもたらそうとしています。メルケル首相が主導するノルドスリーム2やGAIAA-Xを通じたデータ駆動型国土交通管理は、原発に依存するフランスとタグを組んだ国際インフラ戦略となって、習近平の一带一路戦略との対話を開始しました。一方バイデン米大統領のインフラセンシングを駆使した2兆ドル規模の新たなインフラニューディール政策では、COVID-19時代の合理的なインフラリーダーシップが示され、交通産業と新たな都市設計を巻き込みながら、地球規模の社会基盤戦略の到来を予見させます。

計交研を立ち上げた八十島義之助先生は、学外実習で満州鉄道に行き、終戦直後に陸軍召集解除され帰ってきて、当時は日本がどうなるのか解らなかったと述べています。焼け野原になっていた国土の中で、日本の再建について長期的な展望を求められる中、江東地区が路面電車を撤去してから交通手段が手薄なので地下鉄をいれることで、東京の一点集中をうすめていくように、臨海部の都市開発と一体となったビジョンを構想しています。国内外のさまざまなインフラプロジェクトを通じて、国土の未来像を考え、その輪を当会の会員の皆様と一緒に大きく広げてきたとあっていいでしょう。現代日本において、計画と交通を考えることは新たな社会のあり方を考えることに他なりません。多くの会員の皆様と一緒に、これからの国土と都市のあり方を考え議論する場づくりを通じて、会員相互の一層の交流と親睦がはかれるようにと願っていると同時に、その展開に是非ご期待いただきたいと存じます。

## [第5代 家田仁会長 インタビュー]

Interview:

国土を愛し「俯瞰的総合力」を磨く  
会員サロンへの期待政策研究大学院大学教授  
東京大学名誉教授

家田 仁

聞き手・執筆  
作家/エッセイスト茶木 環  
(広報委員長)

八 十島義之助先生を会長につくられた計画・交通研究会は、交通プロジェクトや交通インフラ整備などの「交通」だけではなく、国土・防災・河川等インフラに関する「計画」は全てカバーする姿勢でスタートしました。2013年5月に会長に就任した当時、私はそのことを考え、分野をできるだけ広げることが重要だと思いました。イブニングセミナー(ES)や見学会でも、一見、交通に直結しないように見える話題も積極的に取り上げ、会員の皆さんが刺激と感じて、狭義の交通や土木の垣根を取り払い、インフラの概念が真に必要なあらゆるところまで広がるカルチャーをつくりたいと思ったんですね。その後の会長を務めた中村英夫先生、黒川洸先生、森地茂先生が組織としてのフレームを整えられたので、私はコンテンツの充実とそれを通じた会の経営安定に全力を注ぎました。

企業会員には財政的にも大きく貢献いただいていますので、ESは年1回→年5回と大幅に増やし、そのほかにも日本インフラ留学生セミナーやユニークラボ探訪などを新設しました。これは正解だったと思いますね。また会報も格段に充実して、新たな視点を会に持ち込んで、会員の

「眼からウロコ感」を多くつくってくれた。幸いにそれらを面白がっていただく会員が多くて、所属する会員企業の分野も幅が広がり、また会員数と財政が圧倒的に改善されました。

私の計交研会長の最後の年は土木学会の会長との兼任でもあったのですが、土木学会は4万人の大組織ですから、新たに委員会などを立ち上げるにはそれなりの準備や覚悟が必要。それに比べて計画・交通研究会は小さいからこそ、軽いフットワークで始められる利点は大きいですよ。土木学会でやっている「海外インフラ展開の検討会」も前身は当会で立ち上げましたし、ここから発展したのも多い。「海外人材養成プログラム」も去年は当会が主催しました。

今後に希望するのは一つは若手の育成です。産官学、分野の違う人が集まって研究をする、議論をして何か発信する、あるいは若手が面白がっているいろんなことを集まってやる場をつくりたい。そんなところから若手研究者の会や小研究会などを立ちあげました。八十島先生の時代とは違うけれども、当時のようなざっくばらんに皆が集える環境があるといえますね。

「流域治水」というコンセプトを土

木学会から提言して進めています。狭い意味での河川工学の世界を超えて考えるべき領域が多く、総力戦なんです。それには計画・交通研究会のような多彩な分野で構成された組織こそが威力を発揮する。従来型の国土計画とか都市計画に携わる計画の人間と、水工分野の人たちが、「餅は餅屋」というみみっちい発想を乗り越え、専門にひきこもらず発想をインテグレートするような場になってもらいたい。また、一般的に土木分野は、従来の「安価で役に立つからいい」というような経済価値とは次元の違うレベルでのすばらしさを追求することにはまだまだ不足するところがあるので、計交研では、土木やインフラがこれまであまり得意としないような分野、例えば文化や芸術、それから生物や生きているものの世界などに踏み込んでいいのではないかと思いますね。

第6代の羽藤英二会長は、私よりずっと若く、また発想も私よりもずっと広いですから、活動の幅も一層広がると思いますよ。大いに期待しています。そして、会員の皆さん、誠にありがとうございました。

## Projects:

## 会員企業・団体百景

## アセアン・インド地域事務所を開設しました

## 一般財団法人運輸総合研究所

会長  
宿利正史

**運** 輸総合研究所は、1968年に交通運輸及び観光に関するシンクタンクとして設立されて以来今日まで、研究調査や政策提言、各種セミナーの開催等に精力的に取り組んでまいりました。

今日、我が国にあっては大きな構造変革の渦中にあり、世界にあっては不確実性を増す中で、2020年初からのCOVID-19のパンデミックは、世界の政治・経済・社会に計り知れない影響を及ぼしており、我が国も、交通運輸及び観光産業をはじめ経済・社会に甚大な影響を受けています。

当研究所は、このような現実を直視し、「学術研究と実務的要請の橋渡し」という設立の原点、また、交通運輸・観光分野における我が国と世界の橋渡しの役割を意識して、「世の中の役に立つ」「使い物になる」成果を出すべく活動してまいります。

特に2021年度は、ポストコロナを見据えた交通体系のあり方及び脱炭素社会の実現をはじめ、新しいモビリティ、持続可能な観光地域経営に向けた研究調査等に引続き重点を置いて、研究調査等活動を進めます。

加えて、4月1日にタイ王国バンコクに開設したアセアン・インド地域事



## AIROのロゴマーク

務所 (ASEAN-India Regional Office。略称「AIRO」) において、東南・南アジアを活動の対象地域として、交通運輸政策及び観光政策の策定に資する研究調査や情報収集を行うとともに、シンポジウム等の開催を通じて、同地域の政府・学界・実務者等への有益な情報発信及びこれら関係者とのネットワークの構築を行います。また、ワシントン国際問題研究所 (JITTI USA) の活動を一層充実させ、これらの海外拠点と東京の本部とを一体として、北米及び東南・南アジアをはじめ北東アジアや欧州等を含む世界各地を視野に入れ、広域的かつ戦略的な視点に立脚した研究調査その他の活動を行う方針です。

以下では、AIRO開設の経緯と当面の活動内容等をご紹介します。

## ■ AIRO開設の経緯

AIROの活動対象エリアとなる東南・南アジアは、日本にとって最も関係が深く重要な地域の一つです。当研究所では従前から、これらの地域及び地域の皆様とともに種々の活動を行ってきました。その中で現地に活動拠点を置くことの必要性を実感し、事務所開設の準備を数年前から進めてきました。

多くの国・都市の中から、事務所の開設地として、タイ王国バンコクを選んだ理由には、①交通運輸及び観光分野の課題解決に向け当研究所が貢献できる可能性が高い土地であること、②東南・南アジアにおける交通の要衝であり域内主要都市への交通の便が良いこと、そして何よりも③アーコム財務大臣(前運輸大臣)、サクサヤーム運輸大臣をはじめとする多数の関係者の方々から事務所開設に向け熱心なご支援・ご協力をいただいたこと等の諸条件が揃っていたことがあります。

COVID-19の世界的蔓延による渡航制限など、当初スケジュールからの予期せぬ遅延もありましたが、昨年10月にタイ政府に事務所の活動許可申請を行い、本年2月に許可を得て、無事4月1日に開設することが



サーミットタワー外観

できました。開設に向け様々なご支援・ご協力をいただきました全ての皆さまに厚く御礼申し上げます。

なお、AIROは、バンコクの高架鉄道であるBTSと我が国が東南アジアにおいて初めて技術協力・経済協力を実施した地下鉄であるMRTブルーラインが交わるアソク(Asok)の交差点からほど近いサーミットタワー(Serm-Mit Tower)の17階にオフィスがあります。オフィスには日本から派遣した研究者5名と現地スタッフ2名が常駐しておりますので、機会がございましたら是非ご訪問下さい。

## ■ AIROの使命

AIROでは、東南・南アジア諸国のニーズを踏まえたきめ細かい活動を通じ、当研究所のモットーである「世の中の役に立つ」「使い物になる」貢献を行うことに取り組んでいくこととしています。

AIRO開設に際し、今後活動していく上での指針として、以下の3つの使命を設定しました。



整備が進むバンコクの都市鉄道

(1) 東南・南アジアにおいて交通運輸及び観光の発展を図ることを通じてより豊かな社会を創出することに貢献すること

(2) この地域の交通運輸及び観光における課題解決に向け学術・実務両面における協力を実施することを通じて現地において実感できる成果をあげること

(3) 現地と日本双方の関係者間の交流・連携・協働を促進することを通じて永続的な友好関係・信頼関係を構築すること

東南・南アジア諸国及び日本の政府・企業関係者や研究者の方々と緊密な連携を図りつつ、これらの使命の実現に向け努力してまいります。



バンコク名物の大渋滞

## ■ AIROの活動内容

この使命を踏まえ、AIROでは、①研究調査、②セミナー・シンポジウム等の開催、③情報発信・情報提供及び④組織的・人的ネットワークの構築・拡充という4つの活動に取り組んでいくこととしています。

具体的には、本年のできるだけ早い段階で、現地において政府や関係組織・関係者の方々とお会いして、現地の情勢やニーズ等をお伺いするとともに、AIROの活動の基盤となる組織的・人的ネットワークの構築・拡充に努めます。そして、こうした活動で得られる知見や情報を踏ま



チャオプラヤ川を航行する船舶

え、現地の要請やニーズ等に応える取組みを進めることとしています。

これらの取組みには、本部において従前から取り組んできている交通運輸及び観光の安全・安心の向上、鉄道整備と沿線開発、新たなモビリティ、物流等に関する研究調査やそれらに関するセミナー・シンポジウム等の実施が含まれます。

また、AIROのホームページ(現在作成中であり、それまでは本部ホームページ内に暫定的に日本語版(<https://www.jttri.or.jp/about/airo/>)・英語版(<https://www.jttri.or.jp/english/about/airo/>)を開設しています。)に加え、「AIRO-JOURNAL」(仮称)の発行、本部ホームページへの「アセアン・インド地域事務所レポート」の掲載等様々な手段を通じた情報発信・情報提供にも努めていくこととしています。

これらの取組を通じてAIROの活動の充実、強化を図る予定です。

以上、AIRO開設に関し、簡単にご紹介いたしました。最後になりますが、AIROは、東南・南アジア諸国と日本の交通運輸及び観光分野における結びつきをより緊密かつ強固なものとしていく上で重要な役割を果たすものと確信しています。歩み始めたAIROを含む当研究所への皆さまからの温かいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## Column:

## 巡礼と道

～スペイン巡礼紀行～



(一社)計画・交通研究会  
事務局長

白木原隆雄

## ■プロローグ

今から11年前の2010年の夏にスペインの巡礼路を歩いた。

スペイン巡礼とはどのようなものか。いつ頃から始まったのか。巡礼したことになにか変わったのか。その後の生き方になにか影響があったのか。そのあたりを紹介させていただくこととしよう。

スペイン巡礼とは簡単に言うと、聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラを目指してひたすら歩くことだ。自転車や騎馬も許されているが、ほとんどの巡礼者は歩く。

サンティアゴ・デ・コンポステーラは、スペイン北部の海辺にある町で、エルサレム、ローマと並ぶキリスト教の三大聖地の一つとなっている。



巡礼ルート

サンティアゴは聖ヤコブのスペイン語名(フランス語ではサン・ジャック)で、ヤコブは、ローマ帝政時代にスペインで布教活動を行ったキリストの十二使徒の一人。

8世紀以降、キリスト教徒のレコンキスタで聖ヤコブが現れ、劣勢だったキリスト教軍をたびたび救ったという。聖ヤコブはスペインでのキリスト教の守護聖人となった。

中世に巡礼路が整備され、12世紀には年間50万人もの巡礼者がこの地を訪れたそうだ。近年、スペイン巡礼が世界中から再び注目され、2017年には30万人が歩いている。



巡礼13日目 オンタナス付近の巡礼路

スペイン巡礼を思い立ったきっかけは、あるフランス映画だった。2007年にリリースされた「サン・ジャックへの道」は実に傑作な映画だった。

生き方や考え方が全く違う、恐ろしく仲が悪い三兄弟が、9名の巡礼ツアーに参加する。実は、フランスとスペインの国

境の巡礼宿サン・ジャン・ピエ・ド・ポーで母親の遺産の受取条件がクリアされるのだが、三兄弟は800km先のサンティアゴまで仲良く歩き出す。巡礼ツアーメンバー同士の連帯感も生まれた。エンドロールで巡礼後の彼らの姿が紹介される。皆、優しい人になって幸せな人生を歩み始めていた。どうも巡礼を終えると、人はいい感じに変わるようだと感じた。

当時、会社を辞めて時間もたっぷりあった。四国のお遍路も考えたが、どうせ歩くなら、この際思い切ってスペインを歩こうと決断した。今から思うと良い決断ができたと思っている。



映画「サン・ジャックへの道」(DVD)の紹介



巡礼26日目 オ・セブレイロ付近の巡礼路

本編は6月と7月にHP特別記事に掲載します。

## 一般社団法人 計画・交通研究会

千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル5F-28  
TEL 03-4334-8157 / FAX 03-4334-8158

E-Mail: jimukyoku@keikaku-kotsu.org  
Homepage: <http://www.keikaku-kotsu.org/>

## 理事会

代表理事・会長・企画委員長 羽藤 英二  
理事・会長代理・経営委員長 岩倉 成志  
理事・広報委員長 茶木 環  
理事・幹事長 金子雄一郎  
理事 徳山日出男  
理事 寺部慎太郎  
理事・事務局長 白木原隆雄

## 広報委員会

顧問 國行 薫  
幹事長 小里 好臣  
副幹事長 奥田 豊  
委員 下間 英(本号編集担当)  
委員 赤井真由子(本号編集担当)  
委員 小野田麻里(撮影・HP更新担当)  
デザイン/レイアウト 新目 忍